

Building lifestyle around Ferrari

好きすぎて……春

この本の編集長を12年以上続けているくらいだから、好きな"跳ね馬"はたくさんある。
今号は"新車の谷間"ということで、公私混同で好きをカタチにした……というお話。

今回は珍しく新車情報のない号。3ヵ月に一度の発刊なので、本国デビューおよび続報、日本デビュー、国際試乗会、国内試乗のいずれかはたいていあり、3月発売号と言えば、以前はジュネーブ・ショーでたいてい新車が発表されるため(現地に向かう途中に新車が発表され、そこから特集を切り替えて新たに作り直した……という話を以前ここで書いた気がする)、わりと新車紹介の多い傾向にあるのだが、今回はまさに、"新車の谷間"号となったわけだ。

そこで何をするかと考えた時に最初に浮かんだのが、今回お届けする"V8スペチアーレ"をテーマとした特集であった。そこにはまず、後のページで詳しくご紹介する、表紙にもした素晴らしい個体のチャレンジストラダレとの出会いがあった。その後のページに登場する430スクーデリア&458スペチアーレの企画も、以前某取材で出会った458スペチアーレがきっかけで、そこに488チャレンジをドライブする、『チャレンジ・オン・アイス』レポートの話が大谷達也さんから舞い込み……。そこで"おいおい、488ピスタはどうした"という突っ込みが入るのはもちろん想定していて、これは誌幅と私のスケジュールの限界を突破した結果……と、この場をお借りして弁明したい。

しかしここで強調しておきたいのは、私がチャレンジストラダレから488ピスタに到るこのV8スペチアーレ・シリーズが好きすぎて仕方ないということだ。どのモデルも等しく、言うならば"神フェラーリ"。チャレストの話は当該ページをご覧ください、430スクーデリアはミハエル・シューマッハが来場してパニックに近かったフランクフルト・ショーのフェラー



リ・プースを取材で訪れ、その後、楢井保孝選手とマラネッロの国際試乗会にも参加しえらく感動したのを忘れられないし、奇跡的に"広報車"が用意された458スペチアーレは、あまりの楽しさに、余計に走りまくったのをよく覚えている。488ピスタはTHE MAGARIGAWA CLUBの取材でチョイ乗りさせて頂き、これまた凄い……と感銘を受けたのは昨年の話だ。

というわけで、"好きすぎて……春"という、どこかで聞いたことがあるようなないようなタイトルでこの原稿を書き始めたのだが、好きすぎるジャンルにもうひとつ、『ベルトーネ・フェラーリ』というものがあり、308および208GT4は、密かに運命の出会いを待っているクルマだ。そんな中、3月13日、デザインを担当したマルチェロ・ガンディーニさんが天に召されてしまった。2008年に某猛牛ブランドのイタリア取材でお見かけしただけだったが、その時の印象はまさに"鬼才"。不用意のカメラを向けたため、警戒された視線を浴びてしまったのを後悔している。できれば直接、「貴方のデザインした跳ね馬が好きすぎます」とお伝えしたかった。

ガンディーニさんのご冥福をお祈りいたします。

文&写真 ● 平井大介
text&photograph by Daisuke Hirai
写真 ● 藤井元輔
photograph by Motosuke Fujii